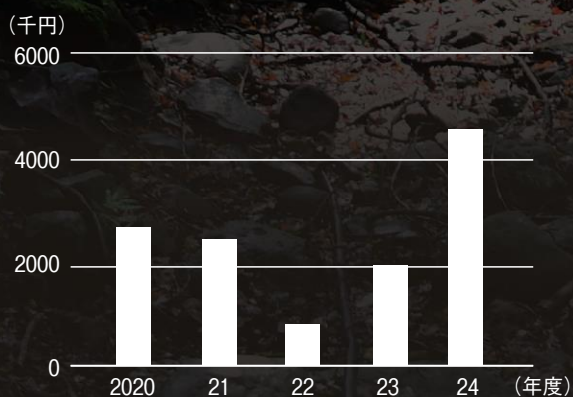


- ② 移動子育てサロンがパワーアップ
- ③ 規則正しい生活で健やかに
- ④-⑤ **特集** 野生鳥獣の被害を防ぐ暮らしの守り人
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ

デジタル広報配信 アプリは「マチイロ」「カタログポケット」ネットは「マイ広報紙」

命と向き合う

市内の鳥獣による農作物被害額



《4・5面に関連記事》
問 農業政策課 ☎25-2813

雨上がりの早朝。木々の隙間からまぶしい光が差し込みます。朝露に光るクモの巣や草木をかき分けて、奥へと進むハンターたち。静寂に包まれる丹沢の森には、足音と川のせせらぎが響き渡ります。

丹沢地域では、シカやイノシシなどの野生鳥獣が増え続けています。里山の荒廃や山林開発などの影響で、すみかが狭まった生き物たちは、食べ物求めて麓へ。農作物を食い荒らすなど、人々の生活のすぐそばに姿を現しています。

猟犬を連れて山へ入っていくハンターたち。彼らは動物の命と向き合いながら、農作物の被害を防ぎ、生態系のバランスを守っています。

Q Zoom Up

育児の悩みを気軽に相談

移動子育てサロンがパワーアップ

未就学児を育てる保護者が児童館などで悩みを相談できる「移動子育てサロン」が、10月から市内4カ所を拠点とする「地域子育てサロン」に移行します。対象年齢や回数などを大幅に拡大。相談の機会を充実させ、誰もが地域の中で安心して子育てできる環境を整えます。

移動子育てサロンは、保護者が子どもを遊ばせながら子育てに関する悩みを保育士に気軽に相談できる場所です。年間の利用者数は3500人を超え、近年は特に需要が高まっています（左欄参照）。子育てを取り巻く環境が変化する中で、不安や悩みを抱えながら子育てする家庭をよりの確にサポートするため、移動子育てサロンをパワーアップ。地域子育てサロンとして、10月から岡田、荻野新宿、森の里、山際の4つの児童館で開設します。

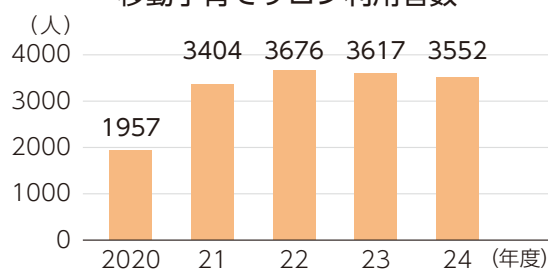
全ての子育て家庭を支援

これまでの移動子育てサロンは、未



利用者同士の交流も魅力の一つ

移動子育てサロン利用者数



※2020年度はコロナ対策のため一部期間休止



誰でも気軽に相談を

子育て支援センター
保育士
福山 真由美 (49)

担当しているサロンでは、全員に声を掛けるようにし、2回目以降は前回話した内容を踏まえて、会話しながら様子を見守ります。離乳食や睡眠、きょうだい関係の悩みなど、相談内容はさまざまです。子育ての不安は誰もが持つもの。身近な人に相談しづらいことでも、気軽に話しにきてください。

新しい地域子育てサロンは、全ての子育て世帯が利用できます。小学生以上の悩みも、他部署と連携しながらサポートし、地域に根差した安心できる環境づくりをしていきます。

就学児とその保護者を対象に市内35の児童館などで月に1回ずつ実施してきました。地域子育てサロンでは、年齢による利用の制限を撤廃。妊産婦や全体的な子育て世帯に門戸を開き、週3回にわたって保育士が不安や悩みに寄り添います。開設する4つの児童館は、地域ごとの相談件数や世帯数を考慮して選びました。

岡田児童館で移動子育てサロンを利用する寺岡佳織さん(41・岡田)は「一人目を出産した時から利用している。子どもを遊ばせながら睡眠や食事などの悩みを保育士に相談できるのはありがたい。保護者と交流できる場が増える」と話します。

子育てしやすい環境へ

現行の移動子育てサロンは、「地域子育てサロン・ミニ」として8カ所の児童館で実施（右下欄参照）。二種類のサロンのひと月の開催回数は56回（1・6倍）、時間も15時間（約3倍）へと大幅に拡大します。

市では、未就学児から青少年までの切れ目ない支援を続けるため、訪問相談なども実施しています。今後も情報発信や関係機関への連携を強化し、誰一人取り残さない子育て環境を目指していきます。

☎こども家庭センター ☎225-2922



幼稚園・認定こども園

入園願書受け付け開始

市内17の園では個性豊かな教育が実施され、預かり保育などの働く家庭をサポートする仕組みが整っています。

☎こども育成課 ☎225-2262

入園願書配布 10月15日～

願書受け付け 11月1日～

※願書や応募要項は各園で配布。
配布開始日や時間、説明会の詳細は各園へ。



詳細はこちら

無料

子育て家庭の相談の場

地域子育てサロン 全ての妊産婦や子どもがいる家庭などが対象

- 岡田児童館 (岡田5-9-1)
火・木・金曜日
- 荻野新宿児童館 (下荻野1253-5)
月・水・木曜日
- 森の里児童館 (森の里1-31-1)
月・水・金曜日
- 山際児童館 (山際180)
月・火・金曜日

いずれも9時30分～12時(12時30分まで相談のみ受け付け)。☎当日、直接会場へ。



地域子育てサロン・ミニ 0～6歳の未就学児とその保護者を対象

- ・妻田 (第1水曜) ・古松台 (第1金曜) ・金田 (第2木曜)
- ・鳶尾 (第2金曜) ・愛甲 (第3月曜) ・妻田東 (第3金曜)
- ・毛利台 (第4火曜) ・緑ヶ丘 (第4木曜)

いずれも児童館(愛甲は工事のため10月1日～11月30日は休館)。10時15分～11時45分。☎当日、直接会場へ。

☎こども家庭センター ☎225-2922



詳細はこちら

無料

幼稚園・認定こども園 就職相談会

幼稚園・認定こども園による就職相談会。就職を後押しする就労応援給付金などの制度説明も実施します。

☎こども育成課 ☎225-2262

【日時】9月27日 13～16時
【会場】あつぎ市民交流プラザ
☎当日、直接会場へ。





週に1回の運動でも健康増進の効果がある

健康相談・増進をサポート

■生活習慣予防健康相談

日時 午前【9時15分～、10時30分～(各回50分)】
9月24日、10月2日、11月13日、12月8日
午後【13時15分～、14時30分～(各回50分)】
9月4日、10月14日、11月6・25日、12月22日

会場 保健福祉センター

内容 保健師や管理栄養士による個別相談

対象 市内在住の方 **費用** 無料

☎相談日の2日前までに健康医療課へ。

■がん検診

早期発見で適切な治療につなげられるよう、8種類のがん検診などを実施しています。受診方法や費用などの詳細は市HPに掲載。



市HPはこちら

■健康度見える化コーナー

利用時間 平日 9～12時、13～16時

会場 保健福祉センター

対象 市内在住の20歳以上の方

内容 血管年齢、骨健康度、体組成、脳年齢、血圧、握力のチェック

☎健康医療課☎225-2201



健康増進・相談などの詳細はこちら

Q Zoom Up

9月は健康増進普及月間

規則正しい生活で健やかに

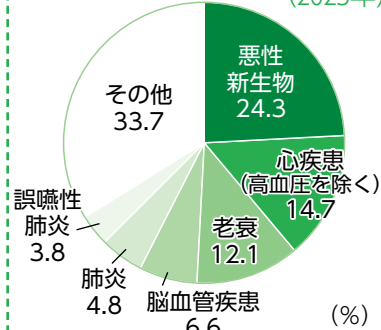
生活の乱れが原因の生活習慣病は、誰もがなり得る病気です。いつまでも元気でいられるよう、運動・食事・睡眠などを見直してみましょう。市でも、がん検診や健康相談、講座などで、皆さんの健康を支えていきます。

生活にひと工夫を

がん・心疾患・脳血管疾患は、日本人の三大疾病です。普段の生活習慣が深く関わる病気です。2023年の死因割合では約5割を占めました。運動や睡眠不足、偏った食生活、喫煙、飲酒、ストレスなどが主な原因で、長い年月をかけて体に影響を与えます。予防するには、毎日の生活を振り返り、見直すことが重要です。

生活習慣病は、日々の暮らしの積み重ねによって引き起こされます。防ぐためには、「通勤や買い物を徒歩にする」「テレビを見ながらストレッチをする」など、日常の中で無理なく体を動かす工夫が求められます。栄養バランスの良い食事、早寝早起きなどの心掛けも大切です。毎日のちょっとした行動が、健康への第一歩につながります。

全国の死因の構成割合 (2023年)



出典 厚生労働省・令和5(2023)年人口動態統計月報年計(概数)の概況

未来を見据えて

自身の健康寿命を延ばすには、規則正しい生活に加え、定期的なチェックで体の変化に早く気付くことが大切です。市では、病気の早期発見・治療につなげるため、がん検診や保健師・管理栄養士による健康相談などを実施(左欄参照)。他にも、運動・食育の講座や健康づくりで特典が当たる「あつぎ健康チャレンジ」(右下欄参照)などで皆さんの健康増進を応援しています。

9月は「健康増進普及月間」です。

健やかな毎日を送るため、まずはできることから始めてみましょう。

☎健康医療課☎225-2201

こころ、元気ですか

9月10～16日は 自殺予防週間

心の疲れや悩みは一人で抱え込まず、まずは相談してください。

☎健康医療課☎225-2201

■いのちのサポート相談

電話や対面で、臨床心理士に相談ができます。

《日時》9月①8日 13～16時 ②25日 9～12時

《会場》保健福祉センター

《対象》市内在住の方 《費用》無料

☎前日までに健康医療課へ。

■ゲートキーパー養成講座

身近な方のSOSサインに気付き、声を掛け、話を聴く方法などが学べる市民団体向けの出前講座を開いています。開催方法などの詳細は、健康医療課へ問い合わせてください。

■リーフレット「こころ、元気ですか？」



心の健康や、福祉、子育て、生活などの相談窓口を案内するリーフレットです。公共施設に配架しているほか、市HPからも閲覧できます。



市HPはこちら

健康づくりを継続しよう

あつぎ健康チャレンジ

スマートフォンアプリ「マイME-BYOカルテ」などを使ってウォーキングや各種健診・検診に取り組むと、特典が当たります。

☎健康医療課☎225-2174

◆個人

《健康・チャレンジ》

期間 9月1日～12月31日

内容 健診・検診や予防接種を受ける

☎期間内に電子申請システムから申し込み。

《ウォーキング・チャレンジ》

期間 11月1日～12月26日

内容 1日平均5000歩以上を30日以上記録する

☎11月27日までにアプリから申し込み。

◆グループ

《グループチャレンジ》

期間 10月1日～11月30日

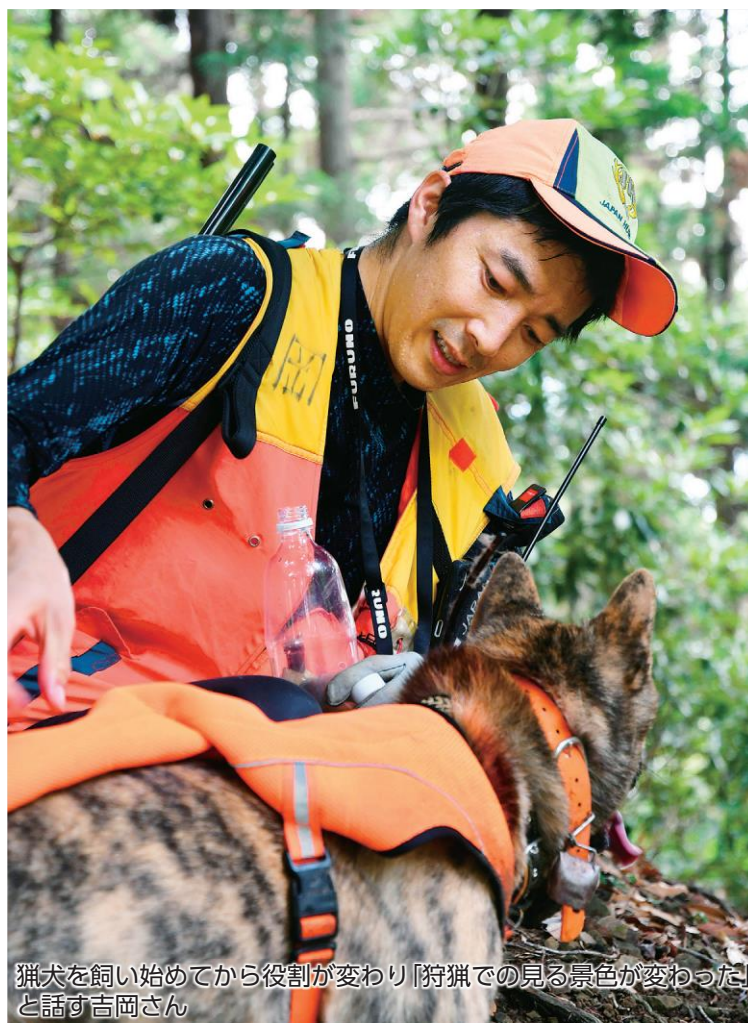
取組内容 4～7人のグループで1日の平均歩数を競う

☎10月27日までに電子申請システムでグループ登録し、10月31日までにアプリから参加申し込み。

いずれも対象は市内在住在勤在学の方。無料。



詳細はこちら



猟犬を飼い始めてから役割が変わり「狩猟での見る景色が変わった」と話す吉岡さん



獲物をじっと待つ立間役のハンター



においや視覚を頼りに獲物を狙う



狩猟前に作戦や役割を共有する

「増えすぎた動物を捕獲すること、自然のつながりを守るために必要」と話す安藤忠幸さん(75・戸室)は、この道55年のベテランハンター。市猟友会の会長を務めています。安藤さんは、ハンターだった友人の父に憧れ、20歳で猟銃を握りました。同じ場面が二度とない魅力に引き込まれて始めた趣味の狩猟は、自然界のバランスを整える

「増えすぎた動物を捕獲すること、自然のつながりを守るために必要」と話す安藤忠幸さん(75・戸室)は、この道55年のベテランハンター。市猟友会の会長を務めています。安藤さんは、ハンターだった友人の父に憧れ、20歳で猟銃を握りました。同じ場面が二度とない魅力に引き込まれて始めた趣味の狩猟は、自然界のバランスを整える

生態系の管理を担う

緑が広がる丹沢には多くの生き物が暮らしています。近年、人間の活動などにより生態系のバランスが大きく崩れ、特定の草木を食べるシカやイノシシは、食べ物を探して、畑を荒らすなど人里に被害をもたらしています。猟友会は、県や市、住民から依頼を受け、一年を通して有害鳥獣の駆除に当たる団体です。市内では1968年に立ち上げられ、現在は30人の会員が活動。農作物に被害を与える鳥獣の駆除や、シカ・イノシシの管理捕獲、サル

特集 野生鳥獣の被害を防ぐ

暮らしの守り人

身近な自然に目を向けると、シカやサル、オオタカなど多くの生き物が、私たちのすぐ近くで暮らしています。その一方、餌を求めて畑を荒らすなど人の暮らしにも影響が出ています。特集では、増えすぎた野生鳥獣を適切に管理することで、被害を防ぎ、自然環境のバランスを守る「猟友会」の姿を追いました。

◎農業政策課 ☎225-2813



萩野に生息する野生のシカ

ための大事な任務となりました。

猟犬と共に山へ

市猟友会は月4回、市内の山に入ります。狩猟は、ハンターが犬と一緒に野生鳥獣を追いつつ「勢子」と、迎え撃つ射手の「立間」に分かれます。先に入った立間が、山を囲むように位置に着くのを待ってから、勢子が続きます。安藤さんと共に勢子として行動する吉岡祐祐さん(41・上依知)が、「新しいシカのふんと足跡があった。犬を放す」と、無線で仲間たちに情報を伝えます。放たれた猟犬が、においや視覚を頼りに獲物を追っていきます。「北側へ逃げた」。吉岡さんも大きな声でシカを追いやると山に銃声が響き、待ち構えていた立間がシカを仕留めました。

狩猟中は、誤射はもちろん、険しい山道からの滑落など、不注意が命に関わるケースも少なくありません。森林伐採の影響で地形が変化しているため、常に情報を共有して細心の注意を払っています。「獲物よりも無事故が最優先だからね」。安藤さんは笑顔で話します。

市内に生息するシカは、約6000頭と推計されています。一年間に捕獲されるシカとイノシシはそれぞれ約100頭、ムクドリやドバトなどは約200羽に上り、管理捕獲はまだまだ追い付かない状況です。「ハンターは面白がって野生鳥獣を撃っている訳ではない。そこには命がある」と、力を込める安藤さん。野生鳥獣も生きるために農作物を食い荒らしていることを理解しています。捕った動物は解体して分け合うほか、ジビエとして夢末市で販売するなど、命を決して無駄にはしません。



「仲間が増えれば」と願う安藤さん



猟犬の首に付いたGPSで位置を確認

野生鳥獣への正しい理解を 誤認保護に注意しよう

野生鳥獣を誤った認識で保護するケースが増えています。もし見つけても基本は手を出さず、自然の営みに任せましょう。

けがや病気の野生鳥獣を見つけたら…

・餌を与えない・触れない

野生の生き物はペットではないので、餌やりはやめましょう。人のおいが付くと多くの哺乳類の親は嫌がり、世話をしなくなるといわれています。安易に触らないようにしましょう。

・すぐに拾わずに見守る

誤認保護の多い巣立ちヒナや子タヌキの親は、近くで見守っていたり、一時的に出かけたりしている可能性もあるため、保護する前に様子を見ましょう。

こんなときは、県自然環境保全センターへ

- ・大人の動物が弱っている場合
- ・対応や判断に迷ったときなど…

けがをしている時や保護するか迷った時、野生鳥獣を持ち込む時は、事前に県自然環境保全センター☎248-0500へ。傷病鳥獣の受け付けは10～16時。外来種やカラス、大型哺乳類は救護対象外。詳細は県自然環境保全センターHPに掲載。



チョウゲンボウ



カワラヒワ



タヌキの幼獣

生き物と適切な距離感を

県自然環境保全センター
獣医師

大道 真見さん



全ての生き物たちは自然の中で、互いに関わり合って生きています。傷ついて死んでいくことは生態系の重要な仕組みの一つで、他の生き物の糧となり、命をつなぐ役割もあります。このつながりに人間がむやみに介入することは、必ずしも野生鳥獣のためにはなりません。動物たちを見つけても餌をあげるなどせず、そっと見守ってあげましょう。

ネズミ捕りの粘着シートや空が映り込んだ窓ガラスへの衝突など、人間の行動が生き物たちを傷つけているケースも少なくありません。野生鳥獣は、私たちが想像しているよりも人間のそばで暮らしています。共生には、野生鳥獣への理解や、両者の程良い距離感が大切なのではないでしょうか。

初めは余裕がなく戸惑いも多かったものの、経験を重ねるうちに、動物の賢さや特有の動きに目が向くようになりまし。山を整備して鳥獣たちの餌を確保すれば、人里での被害は減るかもしれないと、人と生き物が共存するための方策に思いを巡らせます。一方で、「生態系にとって何が正解なのか、本当のところは分からない」と話す吉岡さん。かわいそうと思う気持ちや心の奥に抱きながらも猟銃を握り続けま

「さあ、集中してやろう」。飯山や萩野の山でシカやイノシシを追いかけて、道なき道を進んでいくハンターたち。人と自然の境界を守るため、今日も一つの命と向き合い続けています。

地域のために



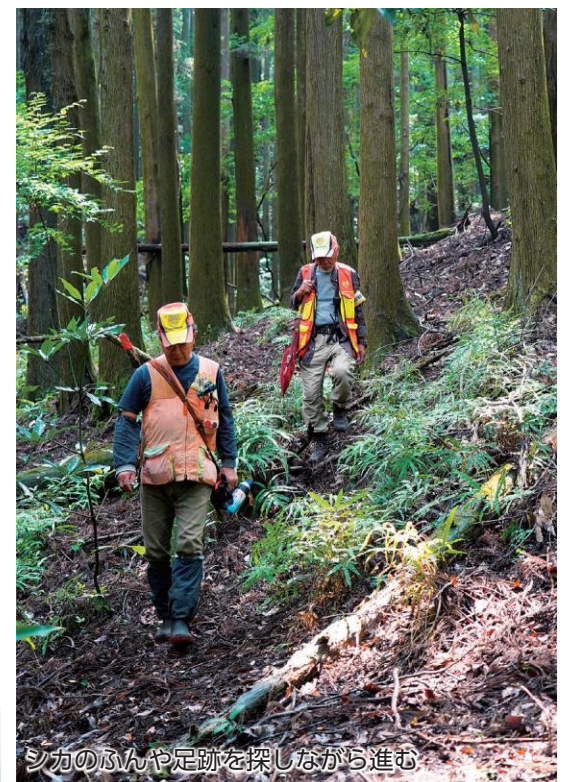
被害状況を伝える菊子さん(右)

受け継ぐ思い

会員の約6割は70歳代です。高齢化が進む市猟友会では、若い力も育ってきています。勢子役の吉岡さんは、都内でシステムエンジニアとして働いていましたが、会社の倒産を機に以前から興味があった農業を地元で始めました。住んでいる地域に、イノシシをはじめとした動物が多いことを知り、自身で駆除できたらと10年前に市猟友会に加入しました。「自然に触れ合うことと自分が久しぶりで気持ち良かった」と振り返る吉岡さんは、一瞬の判断で結果が左右される狩猟の世界に引き込まれました。



豊かな自然が広がる丹沢地域



シカのふんや足跡を探しながら進む



餌を探しに人里へ下りてくる



被害のあった畑のそばにイノシシ用のわなを設置



鮮度を保つため狩猟後は2時間以内に解体

地域から広がる安心の輪

安心・安全セーフコミュニティ推進地区に16地区を指定



市全体で防犯意識を高める

地域の防犯や事故防止を担う「安心・安全セーフコミュニティ推進地区」に市内16地区を指定しました。各地区では今後、防犯パトロールや研修会など地域に根差した取り組みを通じ、犯罪の起きにくい環境づくりを進めます。

指定式には各地区の代表者が出席し、山口貴裕市長から指定書、阿部勇厚木警察署長から「安心・安全」と書かれたプレートが手渡されました。

推進地区代表の難波宗一郎さん（73・荻野）は「犯罪の防止や交通安全、けがの予防などセーフコミュニティの取り組みを充実させ、誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進します」と力強く宣言しました。

夏の食中毒、徹底した備えを

市役所前で予防キャンペーンを実施

夏場に増えやすい食中毒の予防を呼び掛ける啓発キャンペーンが市役所前で行われました。市内の食品事業者や保健福祉事務所、市職員ら約30人が参加。来庁者や通行人に「予防の3原則（菌をつけない、増やさない、やっつける）」の徹底を呼び掛けました。



啓発物品を手渡す山口市長

キャンペーンを主催した食品事業者らで組織する厚木地区食品衛生協会の前場敏男会長は「小まめな手洗い、三原則の徹底が予防の基本。地道に啓発活動を続け食中毒を1件でも多く減らしたい」と、市民へ実践を呼び掛けました。

市では食中毒の予防啓発に加え、厳しい夏の暑さによる熱中症対策も継続して注意喚起していきます。



統合後初の日本一に

厚木王子高校 女子ソフトボール部が全国大会で優勝

7月に岡山県津山市で開催された全国高校総体（インターハイ）女子ソフトボールで、厚木王子高校が優勝を収めました。日本一になったのは、前身の厚木商業時代からは3年ぶり9回目。2024年4月の厚木東高校との統合後は初めてです。



鮎まつりのオープニングパレードにも参加し、喜び姿を見せた選手たち

大会には、全国から48チームが出場。強豪がひしめく中、初戦から準決勝まで投手陣の力投と堅守により、相手の攻撃を抑えて着実に勝利を積み重ねていきました。

決勝では地元岡山県の創志学園と対戦。初回到厚木王子高校が先制するも直後に同点に追い付かれ、そのまま延長戦に突入する大熱戦に。最後は4対3でサヨナラ勝ちし、歓喜の涙を流しました。

早朝から汗を流して健康に

市制70周年記念「ラジオ体操・みんなの体操会」を開催

8月12日の早朝、厚木中央公園に約800人が集まり、「ラジオ体操・みんなの体操会」を開催。ピアノ演奏者の能條貴大さんの生演奏と体操指導者の鈴木大輔さんの元氣な掛け声に合わせ、多くの皆さんが元気に体を動かししました。体操会は、かんぽ生命保険、NHK、全国ラジオ体操連盟の主催。全国を巡回しており、今年度の県内開催は厚木市のみとなっています。

県ラジオ体操連盟の今野睦夫会長は「ラジオ体操はいつでもどこでもできるのが魅力。ぜひ日々の生活に取り入れてほしい」とあいさつ。参加した石原純子さん（52・寿町）は、「朝から体を動かして気持ち良く汗を流せた。今後「も続けていきたい」と笑顔を見せました。



掛け声に合わせて一斉に体操する

未来へ一歩つながる あつぎ70年 みんなで祝おう！

2025年2月1日、市制施行70周年を迎えました。節目の年を皆さんとお祝いするため、スポーツ・文化芸術・歴史など幅広い分野で事業を実施。連載では、旬な話題を紹介していきます。

今月の話題 市制70周年記念映画がクランクイン

市を舞台にした映画「キリコのタクト～YELL～」の撮影が8月15日にスタートしました。作品は行方不明となった伝説の音楽教師・原田貴理子の謎に迫るストーリーで、全編を市内で撮影。初日は厚木中学校からロケが始まり、23日には文化会館の撮影に約400人の市民が観客エキストラとして参加しました。全国公開は2026年を予定しています。



©映画「キリコのタクト～YELL～」製作委員会
厚木中学校での撮影の様子

記念事業やイベントなどの情報は、市制70周年記念サイトをご覧ください。



企画政策課 ☎225-2450



会場の皆さんとカウントダウン

心配していた台風の前報が、まるで嘘のような晴天の中で始まった「あつぎ鮎まつり」。二日間にわたり、約33万人のお客さんをお迎えして開催しました。

初日はオープニングパレードから始まり、立ち並ぶ屋台やエネルギーに満ちたダンスステージなどにぎわいました。暑さに負けない皆さんの活気あふれる姿に、私も元気を分けていただきました。2日目もパワフルなみこしショーで盛り上がり、

してきた夏の伝統的な行事です。小学生の時に市営球場から見た大輪の記憶は、今も鮮明に脳裏に焼き付いています。

猛暑による皆さんの健康への影響を踏まえ、夏の開催を最後とした鮎まつり。誰もが安心・安全に楽しめることを最優先に考え、80回目を迎える来年からは秋に移行します。時期が変わっても先人の皆さんが紡いできた精神を継承し、誇りある伝統文化を発展させてまいります。

民謡総おどりでは汗だくになりながら、皆さんと一緒に全力で楽しみました。

メインイベントの大火大会は初日のファイナルとして約1万発を打ち上げ、市制70周年を盛大に祝いました。私にとって鮎まつりは、子どもの頃から家族や友人と過ご

タウンガイド

9月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

10月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

☎=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
FAX=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ
🗂=講座予約システム (70th)=市制70周年記念事業
愛TV 9/1~ =市広報番組あつぎ愛テレビ
市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「岡津古久のひまわり」

#7月31日撮影

#夏

#ひまわり

#niceatsugi

市公式インスタ

グラムで公開中

あつぎストリートフェス
(市民協働提案事業)

9月20日、17時30分～19時30分。
中町花の公園。路上ミュージシャンのストリートライブ。無料。☎不要。☎文化魅力創造課☎225-2508。

オリジナル点字名刺を作ろう!

9月23日、①10時～②11時～(各回50分)。あつぎ郷土博物館。点字体験と名刺作り。簡単な工作にも挑戦。各回10人。無料。☎不要。先着順。☎あつぎ郷土博物館☎225-2515。

あつぎ郷土博物館
実習生が展示を解説

9月6日、14～15時。あつぎ郷土博物館。博物館の実習生が土器や民具などの展示を解説。無料。☎不要。☎あつぎ郷土博物館☎225-2515。

フクロウの生態を学ぼう

9月28日、10～12時。自然環境保全センター。消化できない骨や毛などを丸めて口から吐き出した塊を調べ、フクロウの生態を学ぶ。20人(小学生以下は保護者同伴)。無料。☎電話またはEメールに参

加者全員の〒住所、氏名、年齢、電話番号を書き、9月15日までに環境政策課☎225-2749・✉3100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。

応急手当普通救命講習会

9月30日、9～12時。消防本部。応急手当の重要性、心肺蘇生法、自動体外式除細動器(AED)の取り扱いなど。市内在住在勤在学の中中学生以上30人。無料。☎9月1～10日に救急救命課☎223-9365へ。抽選。🗂

保護者セミナー「こどもの心を支えるためのヒント」

10月8日、18時～19時30分。あつぎ市民交流プラザ。講話と情報交換。子どもの学校生活に不安がある保護者など20人。☎9月1日～10月7日に青少年教育相談センター☎225-2520へ。先着順。

9月10日は「屋外広告の日」・9月1～10日は「屋外広告物適正化旬間」

屋外広告物の安全管理の普及啓発のため、期間中にパトロールを実施します。屋外広告物の適正な設置・管理と良好な景観形成に協

マイナンバーカードで便利に

コンビニ交付サービス

マイナンバーカードを持っている方は一部の証明書をコンビニで取得できます。

《取得できる証明書》

- ①住民票の写し②印鑑登録証明書③戸籍証明書(全部・個人)④戸籍の付票の写し⑤市・県民税(課税・非課税)証明書(最新年度のみ)

《費用》300円(③は450円)

《時間》6時30分～23時(③④は平日9時～19時30分)

《場所》マルチコピー機があるコンビニエンスストア



詳細はこちら

☎市民課☎225-2110・市民税課☎225-2012(税の証明)

ホット

インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集中

厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報シティプロモーション課☎225-2043

8月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆社会インフラを整備することで、優良な企業が厚木に集まってほしい／40代男性 ◆回覧板のデジタル化は自治会を将来に残すためにも重要なこと／60代男性 ◆いつ起きるか分からない災害に備え、携帯トイレの備蓄は大切／70代以上女性 ◆戦争の過ちを繰り返さないことは、どの世代も関係なく認識する必要がある／30代女性 ◆永里優季選手に多くの子どもたちが夢を抱いたと思う／20代女性

70th 伝統芸能の祭典

郷土芸能まつり



市の伝統文化を鑑賞しませんか。

☎文化魅力創造課☎225-2509

《郷土芸能発表会》

日時 10月19日 13時30分～16時30分

出演 相模里神楽垣澤社中、長谷・愛甲ささら踊り盆唄保存会、法雲寺酒井双盤講、七沢浅間・中荻野馬場太鼓保存会、三浦市海南神社面神楽保存神楽師会(特別出演)

《相模人形芝居特別公演》

日時 11月15日

13時30分～15時30分

出演 相模人形芝居林座・長谷座、あつぎひがし座

いずれも会場は文化会館。
定員300人。☎不要。先着順。

力をお願いします。☎都市計画課☎225-2401。

市民ふれあいマーケット

9月21日、9時30分～14時(雨天中止)。厚木中央公園。日用雑貨や衣料品などの不用品を100店舗が販売。☎環境事業課☎225-2793。

あつぎミュージックフェスティバル新人シンガー
発掘オーディション最終選考の観覧者を募集

9月14日、14～15時。あつぎ市民交流プラザ。オーディションの観覧。定員30人。無料。☎不要。先着順。☎文化魅力創造課☎225-2508。

北部地区公園の都市計画決定に関する案の縦覧と意見書受け付け

北部地区公園の都市計画案を縦覧し意見書を受け付けます。

《期間》9月12～26日《縦覧場所》都市計画課または市HP《意見書受け付け》市内在住在勤または当該都市計画と利害関係がある方などが対象。☎都市計画課や市HPにある意見書を、直接または郵送、ファクス、Eメールで9月26日(必着)までに〒243-8511都市計画課☎225-2400・FAX222-8792・✉4600@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

年末年始のテニスコート利用

市内4カ所のテニスコートが使えます。

《期間》①12月29～31日②2026年1月1～3日、9～17時《場所》厚木・南毛利スポーツセンター・荻野運動公園・若宮公園テニスコート。☎①9月1日②10月1日から公共施設予約システムへ。抽選。☎行政経営課☎225-2160。

市議会正副議長が決定

8月7日の市議会第5回会議で、議長に瀧口慎太郎氏(ネクストあつぎ)、副議長に望月真実氏(新政あつぎ)が選出されました。瀧

口氏は、副議長をはじめ、総務企画常任委員会委員長や環境教育常任委員会委員長などを歴任。4期目。46歳。長谷在住。望月氏は、総務企画常任委員会委員長や予算決算常任委員会副委員長などを歴任。3期目。55歳。東町在住。☎議会総務課☎225-2700。

青少年発明コンクール作品展示

9月13～29日。本厚木駅前東口地下道。市内の小・中学生が夏休みに作った発明品を展示。無料。☎不要。☎産業振興課☎225-2830。

みんなの声で ちゅうまち

《パブリックコメント》

●第11次市総合計画長期ビジョンの策定

☎企画政策課☎225-2455。

■企業等の立地促進等に関する条例の改正

☎産業振興課☎225-2831。

◆客引き行為等防止条例の改正

☎くらし交通安全課☎225-2148。

◆みんなで守る美しい環境のまちづくり条例の改正

☎生活環境課☎225-2750。

いずれも《閲覧期間》9月1日～10月1日《閲覧場所》各課窓口、市政情報コーナー、公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ、保健福祉センター、市HP(●◆はあつぎセーフティステーション番

屋、●は子育て支援センター、あつぎ郷土博物館ほかを含む)《応募方法》閲覧場所にある用紙に掲載。

《意見交換会》

市子ども育成条例の改正方針

9月18日、18～19時。市役所本庁舎。手話通訳・要約筆記あり(9月10日までに要予約)。☎不要。☎こども育成課☎225-2262。

厚木市 市民参加

検索

編集後記

猟友会や県自然環境保全センターの方々から話を聞くうちに、人間と生き物の境界が曖昧になり、野生鳥獣が住みづらくなっている現状を知りました。「野生鳥獣こそ人間の被害者かもしれない」という、猟友会の安藤さんの言葉が心に深く残っています。市の魅力の一つである身近な自然には多くの生き物が暮らしています。人と動物たちが共生できるように、できることから始めていきたいと思います／佐々木

申し込み
不要

気軽に楽しく体を動かす
**スポーツレクリエーション
フェスティバル**

子どもから大人まで気軽にできるスポーツやレクリエーションを楽しみませんか。
☎スポーツ魅力創造課 ☎225-2531

《日時》 9月20日 10～15時
(雨天時は屋内種目、モルック、ペタンクのみ)

《会場》 荻野運動公園

《種目》
屋外 グラウンド・ゴルフ、モルック、テニス、ティーボール
ペタンク、幼児運動・サッカー・陸上教室
屋内 卓球、セストシューター、バドミントン、
体力測定、健康マージャンなど

《費用》 無料

《持ち物》 室内履き





無料

70th

あつぎSDGs フェスティバル

工作やゲームなどで持続可能な開発目標(SDGs)を学べるイベントです。
☎企画政策課 ☎225-2450

日時 9月21日 10～16時

内容 クイズラリー、竹を使ったこまのおもちゃ作り、巨大防災すごろく

会場 あつぎ市民交流プラザ

☎ 不要。



詳細はこちら

事前申し込み制イベント

■厚木市版Get The Point体験会

■講演会

時間 13～15時

時間 14～15時

内容 市の特産品が描かれたボードゲームを使ってSDGsを学ぶ

内容 実験を通じて環境問題を伝える「らんま先生」にSDGsを学ぶ

定員 市内在住在勤在学の高校生以上30人

定員 100人

いずれも ☎ 9月10日までに講座予約システムへ。抽選。

自然歳時記

● オオルリ ●
ヒタキ科

全長16.5センチほど。ウグイス、コマドリ、オオルリは日本の3鳴鳥で鳴き声がとても美しい。南へ渡る準備のため今はあまり鳴かない。瑠璃色でおなかは白く姿も美しい／七沢の谷間で見つけた。 写真・文／吉田文雄



猛暑日が続き、山の木々は元気ない。樹液を探す昆虫も数少ないが、溪流沿いの林を進むと、吹き上げる風が天然のクーラーとなり全てを忘れるほど気持ち良い。「ピーリーピーリリリッ」と遠くから鳴き声が聞こえてきた。双眼鏡で谷間の方を探したが、なかなか見つからない。聞き耳を立てているとすぐ近くにいる気がして双眼鏡でもう一度のぞくと、意外にもそばのヤマフジの枝に止まって喉を膨らませ小さく鳴いていた。「植物に昆虫に鳥に、そして人にも優しい地球を」と小声で鳴くオオルリが語っている気がした。